

東濃地区大会・県大会への御来場 ありがとうございました！



可児市教育委員会賞受賞！！



7月23日(土)・24日(日)に、瑞浪市総合文化センターにて、東濃地区大会が行われました。本校は23日16:20からの上演。今回も多くの方にご来場いただきました。部員の頑張りが実り、念願の県大会出場を果たしました。前回出場から4年ぶりの快挙です。県大会は8月5日(金)～8日(月)に可児市文化創造センター「アーラ」小劇場にて。本校は7日13:20からの上演。高い評価を得て、4位相当の「可児市教育委員会賞」をいただきました。先輩から続く悲願が叶った夏、けれど苦い思い出にもなった夏を振り返ります。



いつの間に、そんなに成長？

現顧問は瑞浪高校在勤10年目になりますが、昨年度1年間学校を留守にしました。その間、指導にあたった顧問のもと、今までにない試みとして、教室に暗幕を張っての自主公演をダブルキャストで実現しました。また、3月の文化部発表会は脚本選びから上演まで完全に部員だけの力で成功させました。昨年度の顧問は春に転勤となりましたが、演劇部員は大きく成長しました。現顧問が4月に学校へ戻って、その変化に戸惑うほどでした。



ちょっと多すぎる入部希望者

4月、「今年は見学者がたくさん来てくれるなあ」と喜んでいたら、3年生5名、2年生2名の部としては、世話をしきれない数の登録がありました。その後徐々に減って、最終的な新入部員は7名に落ちつきました。2・3年生を併せた人数と同じというバランスです。

このHPを中学時代から見ていて、瑞浪高校演劇部に入るのだと決めていたという生徒もいました。年々、既に入部段階でかなり気合いの入った生徒が多くなる傾向にあります。個性的でやる気に溢れた7人が加わりました。



頑張る上級生 成長する一年生

顧問は年度当初なかなか部活にいけず、ずいぶん経ってから1年生の顔ぶれを知りました。その間、部活の運営は生徒任せ。3年生は部長を中心によく部をまとめ、言いにくいことははっきり言って指導をし、2年生も3年生を立てつつ1年生をきめ細かく世話するなど、生徒だけで立派に活動しました。たまたま発声を見に行くと、上級生は顧問の記憶が間違いかと思うほど良い声が出ており、1年生も上級生の指導に応じて急成長していきました。大会前には上級生が指示しなくても、1年生だけで準備や片付けがてきぱきと済んでしまうほどでした。



コメディに別れを告げて

毎回楽しくも悩ましい脚本決め。生徒が熱心に既成作品を探す間、顧問も脚本を完成させました。現場を離れていた余裕を使って、昨年度の夏過ぎから構想を立て、時間だけは今までで一番かけることができました。次いで、通勤途中で聞いた落語に想を得てもう一本コメディも書き上げました。

生徒は顧問作品2本を最終候補にして、それぞれにキャストの案も決めた上で、じっくりと読み込み、悩んで悩んで前者の作品「身替わりかれん」に決めました。これまでの顧問作品と比べて、台詞劇の側面が強い、役者の技量次第の本である上、これまでこだわってきた笑いの要素がほとんどありません。今回の瑞浪高校は、コメディに別れを告げました。



棒立ち 棒立ち また棒立ち

視覚的に派手な場面が少ない作品です。顧問は自分の言葉に自信が持てず、ミーティングで部員に自分の思いを言わせ、それを台詞として脚本に入れ込んで大幅に書き直しました。キャストの個性は際立ち、台詞の重みは増しましたが、会話劇の側面がさらに強くなり、舞台上で動くのが大変な劇になりました。

生徒は期限を区切り、「ここまでは顧問が一切口を出さないで生徒が演出から何から全部決める」という方針を決めました。かなり頑張りましたが、役者が棒立ちでひたすらしゃべっているだけというシーンがたくさん出来てしまっていて困りました。



キャストの個性は際立ち、台詞の重みは増しましたが、会話劇の側面がさらに強くなり、舞台上で動くのが大変な劇になりました。



試行錯誤で部員がすべての答えを出す！

夏大会の間、1年生は創造的な事が出来ずに、忍耐の何ヶ月かを過ごすのが通例となっています。しかし、今年の3年生は、自分達7人の演じる配役をそのまま1年生7人にも当てて、1年生は1年生だけで同じ芝居を作らせるという試みをおこないました。顧問は最初「そんな暇があるのか？」と止めようかとも思いましたが、生徒の考えに任せました。これが思わぬ効果を生みました。1年生が上級生の演技レベルに驚くのは当たり前ですが、1年生が先入観にとらわれないでやってみせる演技が上級生にしばしば大きなヒントを与えたのです。

こうして徹底した試行錯誤を重ね、山のような問題点を一つ一つ生徒が解決していきました。顧問が何も思いつかない場面に見事な解答が与えられたり、顧問がベストと思って指示をしたことの上をいく演出が提案されたりということの連続でした。

本番で好評だった青転での机の移動や、2人のかれんのシンクロは、生徒がこれでもかというくらいこだわってこだわって練習した成果でした。



良き理解者に恵まれた瑞浪高校に感謝！

今年は、例年にも増してたくさんの差し入れをいただきました。OB、保護者のみならず、「熱心に練習していて感心だから」と演劇部とは無関係な先生がくださったりしました。体育館のフロア練習に、体育系の部が快く場を貸してくださいました。瑞浪高校のあたたかい眼差しには感謝感謝です。本番にも、校長先生や、部員の担任の先生、転勤された先生に至るまで、大勢の先生方がお忙しい時間を割いて観劇してくださいました。ありがとうございました。



OB諸君も大勢練習を見に来てくれた上、本番の観劇、楽屋への励まし等、後輩のためによくしてくれました。保護者の方々も部のことを深くご理解いただき、あたたかく見守ってくださるのみならず、差し入れをいただき、荷物の運搬などにもご協力いただきました。感謝に堪えません。多くの方のあたたかさに支えられて芝居を作っていることを我々は決して忘れません。



集中しきった本番 県大会へ！

本番が近くなって、上演時間をはみ出すことがやっと判明。脚本を削ったにも関わらず演出を改善したために時間は縮まらないという事態に陥り、再度削って、60分に収まったのは本番前日というぎりぎりの完成でした。





そのぎりぎり感が役者の集中につながったのか、地区大会本番では、教室用の椅子机が6組あるだけのシンプルな芝居が、会場の空気を支配していくのを感じることができました。高い評価を得て念願の県大会出場が決定、恒例の車座になったの反省会は、本当に久しぶりの喜びの涙に包まれました。

敢えて「中部大会出場」を口にして

1年生の時、自信がなさそうな雰囲気全員が纏っていた現3年生5人。しかし、良き関係を作ることで、大きな成果を手にし、自信を深めました。反省会では「さらに中部大会へ」という言葉が3年生から出ました。不遜なことではあるけれど、敢えてこの「中部大会出場」を皆で口にすることで、新たなモチベーションを高めていくことにしました。

県大会対応をどうしていいかわからない我々に、他校の先生や生徒が応援に足を運んでくださり、メールでもいろいろな先生から示唆をいただきました。最初、地区大会の成功に固執して「そのままやろう」と守りに入りそうだった生徒も、変えられるところは徹底して変えるという攻めの姿勢に変わりました。



大きな収穫 しかし「中部大会を最後の最後に逃がした」

県大会は可児市文化創造センターの小劇場。かつて立ったことのないタイプの劇場、リハ室での1時間の練習、最新鋭の音響・照明設備など初めて尽くしの本番でした。そんな中、生徒はキャストもスタッフも破綻なくやり抜き、県大会の会場に深い印象を残すことができました。



我々の演じた3日目は実力校がずらり並んでおり、特に我々の後には岐阜農林、池田と続くとんでもないラインナップ。着替えもそこそこに満席の会場に潜り込んで観た岐阜農林は、上演後の会場がかつてなかったような異様な興奮に包まれる驚異の芝居で、大急ぎで戻った楽屋講評の時間、一同その感動から抜け出せず呆然としてしまっていたほどでした。

結果は4位相当の可児市教育委員会賞。中部大会3校の枠に入ることができず、部長、副部长は壇上で賞状を受けながら悔し涙を流しました。専門審査員には脚本を絶賛された上で、演出も演技も全て正解であった、この芝居は中部どころか全国に行くべき作品である、しかし「本番で乗り切れなかった。君たちは9回裏最後の最後に中部大会を逃したようなものだ。」と言われ、反省会は悔し涙を延々と流しました。



真澄祭で有終の美

気持ちを切り替えての真澄祭。上演は9月1日（木）。理屈っぽい内容で視覚的に派手さのない劇でしたから、体育館の暑さに耐えられず、次々に会場の生徒が離脱していくという中でしたが、最後の「かれん」を楽しく演じることができました。クラス活動が忙しく、1週間ほど全く部活をやれないまま、前日に一度通しただけの本番でしたが、一夏を全て懸けた稽古は一人一人の体に浸みっていました。

これで3年生の舞台が最後というのは不思議な気がしますが、部の運営の中心は2年生2人にバトンタッチされ、秋には1年生7人の芝居が始動します。

3年生5人は、瑞浪高校演劇部の歴史に、確実に他の学年にはなかった新しい足跡を残してくれました。ここに深い感謝と賞賛を書き残したいと思います。



今回の上演台本 （題名をクリックしてPDFファイルで御覧ください）

[「身替わりかれん」](#) 前川泰信作 60分 主要キャスト7名 + 若干名

※掲載の脚本は県大会上演版です。

[「夢の卵 - 落語『天狗裁き』より -」](#) 前川泰信作 60分 キャスト7名+α

※今大会ボツ稿ですので、上演を経ておりません。

次回上演のご案内

瑞浪高等学校演劇部次回の上演は、11月5日（土）・6日（日）の東濃地区合同公演となります。場所は恵那市文化センター。例年のように1年生主体の芝居となります。ご来場をお待ちしております。

